

仙台市議会 (市政活動報告) 会派「市民フォーラム仙台」

発行／会派「市民フォーラム仙台」 加藤けんいち

【連絡先】
〒980-8671
仙台市青葉区国分町3-7-1
仙台市議会
「市民フォーラム仙台」
TEL 022-214-8719

【事務所】
〒981-0952
仙台市青葉区中山4-6-34
会派「市民フォーラム仙台」
加藤けんいち事務所
TEL/FAX 022-279-5255



元気
アップ!
仙台!!

仙台市議会議員 (青葉区)

加藤けんいち

令和6年1月号 <http://www.katoken-sendai.com>

暮らしに夢を！子どもたちに未来を！

令和6年がスタートしました。今年もみなさまにとって安心で安寧な1年となりますようご祈念申し上げます。昨年は、仙台市議会議員選挙が挙行され投開票の結果再び役割を頂くことができました。これまで議論してきた取り組みを踏まえ改めて「こどもたちの教育環境の整備」「町内会を始めとした地域コミュニティによるまちづくり」「歩道や道路空間の安全確保など生活に密着した課題への対応」「地元企業への優先発注など地域経済の活性化」等々、このたびの選挙戦でお約束した課題について引き続き対応してまいりたいと思います。

21世紀の半ばを展望した都市像を示す新たな「仙台市基本計画」のもと直面している少子高齢化や人口減少の課題と共に、デジタル革命とも呼ばれる情報化の進展、気候変動問題の深刻化やカーボンニュートラルの潮流など急速な変化にも対応していかなければなりません。4期目となり中堅と言われる議員活動を迎えました、引続き10年後20年後を見据えた仙台の都市を創造しつつ、みなさんの負託にお応えできるよう気持ち新たに精進してまいりたいと思います。



歴史ある本会議場で締めくくりとなる一般質問を行いました

仙台市役所本庁舎建替により議会棟が解体されることとなり、58年の歴史ある議場で最後の質問者となりました。

【以下、6/6第2回定例会一般質問より抜粋】

最後に、本定例会は、この議場で行われる最後の定例会となりました。昭和40年12月11日、この議場で一番初めに質問に立たれた議員は、当時発生した事案に対する緊急質問を行ったとのこと。この時の定例会では21件の議案が上程され、市民税減税のための条例の一部改正・ごみ焼却炉の機種選定と公害問題など当局との間で熱心な議論が繰り広げられ、会期は一日延長、さらに最終日は会議時間の繰り上げについて議決がなされ、この議場で初めて開会された定例会の最終日は午前零時10分に至り閉会したと仙台市議会誌に記されておりました。



約58年の間、この議場は本市における重要な政治的決定の舞台となってきました。その過程で困難な課題に直面することもありましたが、様々な立場の議員たちが市民のみなさまの信頼に応えるべく日々議論を積み重ね、解決策を見出すために力を尽くしてきました。

この議場で築きあげられてきた市政の歴史、そして本市の更なる発展を目指す私たちの志は、場所を移しても変わることなく連綿と受け継がれていくことと思います。

くしくも本定例会が私たち市議会議員の任期最後の定例会となりました。新たな議場でまたみなさんとお会いすることができるよう、引き続き努力を重ねてまいることを誓い合いたいと思います。

この歴史ある議場で、締めくくりとなる最後の質問の機会を頂いたことに感謝を申し上げ、私の一般質問といたします。ご清聴ありがとうございました。

第3回定例会が開催されました

9月12日～10月13日までの32日間仙台市議会第3回定例会が開催されました。

今回の定例会には、条例案10件・人事案3件・その他案7件・補正予算7件・決算認定7件の計34件の審議が行われました。補正予算では、(仮称)仙台こども財団補助金の追加約3千万円・仮設教室借上料等の追加約1億5千万円について審議、条例案では、スマホだけでコンビニ等で印鑑登録の証明書が発行できる仙台市印鑑条例の一部を改正する条例・大規模修繕工事が行われたマンションに対する固定資産税の減額ができる仙台市市政条例の一部を改正する条例・学校校舎の増改築に合わせ児童館を合築する工事請負契約の締結に関する件について審議、令和4年度の決算についてもすべて認定すべきものとして可決いたしました。



第3回定例会において「代表質疑」を行いました【主な質疑】

本市の財政見通しと大規模財政出動について

問 令和6年度から令和15年度までの10年間の収支差は約3,621億円の赤字との財政見通しを公表された。一方で本庁舎建替えは令和6年に着工し令和10年第1期の供用開始に向け当初472億円から資材高騰に伴い514億円に上方修正・泉区役所建替えでは令和8年の供用開始に向け83億円・音楽ホール中心部震災メモリアル拠点複合整備は令和13年の開館に向け当初218億円から350億円に、その他経費は明らかにされていないが定禅寺通再整備は令和6年から9年の工事を予定、勾当台公園再整備は令和7年から9年の工事を予定しており、特に令和7年から9年にかけてこれら大規模な財政出動を伴う事業がすべて重複する。年次計画を綿密に行い市民のみなさまに対する財政の「見える化」を進め分かり易い発信を求める。

答 市長: 厳しい財政状況が続くなかであっても、まちの賑わいや活力の創出に向けた将来への投資を着実に進めるためには、大規模事業をはじめとした各事業の年次計画と財源を検討し、市民の皆さまにご理解をいただくことは重要であると認識しております。今般お示しをいたしました財政見通しでは、主な大規模事業の予定時期や財源、投資的経費における年度間の本市負担額の推移に加えまして、持続可能な財政基盤の確立に向けた歳入歳出両面における各般の取り組みをお示しをしております、ホームページでも公表しているところでございます。引き続き、年次計画等の検討を全庁的に進めながら、市民の皆様にとって、よりわかりやすいものとなるよう、公表内容の工夫を図ってまいりたいと存じます。

物価高騰対策について

問 この間、原油価格や物価高騰の影響により生活が困窮する市民を支援するため生活困窮者に対する施策や、食材料費の物価上昇分に相当するための助成金の支給など様々な対策を講じてきたことは承知しているが、今回の補正予算にてどのような施策が打ち出されるのか期待をしていたが残念ながら物価高騰対策の施策が見当たらない。市長は物価高騰に対しどのような対策を打ち出されていくおつもりか伺う。

答 市長: ウクライナ情勢を背景とするエネルギー価格をはじめとした急激な物価高騰は、市民の皆さまの生活や、事業者の方々の経営に大きな影響を与えているものと認識してございます。これらの急変に対応するため、これまで低所得世帯等への給付金や、貨物運送事業者への燃料費支援など様々な支援を行ってきたところでございます。また、今年度においても、補正予算を編成し、福祉施設等における食材料費高騰への対応や、事業者の生産性向上に向けた支援策などを実施しているところでございます。引き続きエネルギー価格等の高騰に対応するため、現在、国においてガソリン価格や電気・ガス料金への支援継続をはじめ、物価高騰への対応を柱とした経済対策の検討が進められているところでございまして、こうした国の動向を注視するとともに、本市における施策の効果を見定めながら、必要な対応を行ってまいりたいと、このように考えてございます。

ガス事業民営化について

問 前回の公募が事実上白紙となってから丸2年となった。「前回の公募以降、幅広い業種の20社以上の事業者との意見交換を行うなど事業者の経営環境の把握にも努めてきた」と第2回定例会において答弁されているが、その後の民営化に向けた取り組みが見えない。前回公募結果やこれまで足掛け2年にわたる事業者との意見交換を踏まえ、特にどのような点を注力すべきポイントと定め、それに対してどのような取り組みをされてきたのか議会そして市民に報告すべき事はないのか伺う。

答 市長: ガス事業の民営化においては、安全安心な都市ガスを将来にわたりお客様にお届けする、これが大前提でございます。加えて、私は、ガス事業を引き継ぐ企業には、本市の経済における重要なインフラ企業として、そのノウハウや強みを活かし、市民サービスの向上や地域経済の活性化にお取り組みいただくことにより、それらが仙台のまちづくりにも資することを期待しているものでございます。高騰しておりました原燃料価格の緩やかな落ち着いたこと、エネルギー業界を取り巻く環境変化が、各社の経営や投資意欲に与える影響の把握など、事業者との意見交換を継続しているところでございまして、市民の皆さまにメリットを実感していただける民営化の実現に向けて、公募再開の適切な時期を見定めてまいります。

今後の児童館整備の方向性について

問 現在、児童館・児童クラブのあり方検討部会合同会議において児童館の整備方針について議論がなされているが、安全・安心の観点から当該学区の小学校が改築される際には合築化を検討することとしており多に賛同する。今後の児童館整備の方向性について当局の所見を伺う。

答 子ども若者局長: 現在、児童館・児童クラブのあり方検討部会合同会議におきまして、諸課題の対応について議論が行われておりまして、その中で、小学校の改築の際には、既存児童館の合築化を検討するという方針についても協議いただいているところでございます。児童の安全性ですとか小学校との連携、さらには校庭等を活用しての活動の充実化などの観点からは、合築の利点は大きいものと考えておりまして、今後の検討部会での議論を踏まえ、市としての整備の考え方を整理してまいりたいと考えてございます。

決算等審査特別委員会にて「総括質疑」を行いました【主な質疑】

☞ コミュニティセンターの大規模改修

問 コミュニティセンターの大規模改修については築20年・築40年を目途として実施することとしているが、決算年度における実績額とここ数年の状況（トレンド）について伺う。

答 令和4年度における大規模修繕の実績でございますが、設計につきましては、前年度からの繰り越し1件を含む6件、工事は4件を実施しており、決算額は備品更新費等も含め2億4,903万円余でございます。また、近年の実施状況ですが、件数は年度ごとにばらつきはあるものの、設計、工事ともに概ね3件前後、決算額は2億5,000万円から4億円程度で推移しております。



問 コミュニティセンターについては、昭和50年代に建てられたものが10か所・昭和60年前半に建てられたものも10か所あるなど施設の老朽化は着実に進む訳だが、今後令和7年度から令和9年度についてどの程度の大規模改修を想定しているか伺う。

答 コミュニティセンターの大規模修繕につきましては、公共施設総合マネジメントプランに基づき実施しており、これまでの実績等をふまえると、1年度につき3件程度の設計及び工事を実施していくものと見込んでいるところでございます。

☞ 公共施設の総床面積

問 平成31年3月策定の公共施設総合マネジメントプランでは、本市の公共施設の総床面積は約358万㎡で築30年を超えた施設が4割に達したとのこと。決算年度の状況とR7～R9の見通しについて伺う。

答 本市の公共施設の床面積についてですが、令和4年度末時点で、総床面積は約360万㎡となっており、そのうち築30年以上が約6割となっております。令和7年度から令和9年度の延床面積の見通しについては、より規模を抑制して建替えるものがある一方で、増改築においては増加が見込まれているものもあり、全体としてはほぼ横ばいになるものと考えております。

☞ 大規模財政出動に伴う市債の見通し

問 決算年度末の市債残高7,626億円、臨時財政対策債を除くと4,771億円となっております。令和8年度は843億円の市債見通しとしている、将来最大となる年度と額をどのように見ているのか伺う。

答 今後の市債発行額は、大規模事業や公共施設の長寿命化対策と連動する形で一時的に増加し、令和8年度にピークを迎え、その後は減少していく見通しとなっております。臨時財政対策債等を除いた通常債残高についても、概ね市債発行額と同様に推移し、機械的な試算ではございますが、ピーク時には、6千億円台後半の水準となりますが、その後は、緩やかな減少傾向へ転じていくものと見込んでおります。引き続き、事業費の精査による市債発行額の抑制、国の支援メニューの積極的な活用などを図りながら、財政運営の堅実性を確保してまいります。

☞ 歳入増（地元企業への優先発注）の取り組み

問 地元中小企業への優先発注について、令和4年度の地元発注率は件数で85%とのことであったが、金額ベースではどの程度となっているのか伺う。

答 令和4年度に契約担当課で行った契約のうち、地元企業への発注割合は、金額ベースでは約8割となっております。

問 第2回定例会本会議において、契約担当課だけでなく各局の物品・賃貸借・一般サービス契約についても調査を行い市全体の発注率を確認するよう求めたが、その後の取り組みについて伺う。

答 令和4年度に、各課で契約締結を行った、1件100万円以上の物品・業務委託・賃貸借の各契約における発注状況調査を実施したところ、約2,000件の契約が該当し、地元企業への発注割合は、件数ベースでは55%、金額ベースでは66%という結果になっておりました。引き続き、契約事務における公平性や競争性の確保を基本としながらも、地域経済の循環を促し、地元企業の受注機会の拡大につながるよう、庁内にさらなる意識の醸成を図ってまいります。

☞ 定員管理と労働時間管理

問 仙台市定員管理計画では職員数の目標が令和5年度当初で14,592人となっているが実績を伺う。

答 令和元年度を始期とする定員管理計画におきましては、計画期間の終期である令和5年度当初の職員数について、令和元年度当初の職員数の維持を基本としつつ、これに新型コロナ対応による増員分127人を加えた14,592人と同水準とすることを目標に、定員管理に取り組んでまいりました。令和5年度当初の実績値は、目標値を20人下回る14,572人となっております。計画で目標とした職員数の水準を達成いたしましたところとです。

問 一方で超過勤務手当に約500人分を超える人件費を要している。超過勤務を増やしながら人を減らすのか、人員を増やして超過勤務を減らしていくのか伺う。

答 長時間労働につきましては、労働安全衛生はもとより、やりがいを持って働き続けることのできる職場環境づくりという点からも、是正していくべきものと強く認識しております。令和5年度当初を始期とする現行の定員管理計画では、人員の削減を前提とせず、今後4年間の計画期間を通じて、職員数の水準を維持する目標としております。その上で、労働力人口の減少により人材の確保がより厳しさを増すことが見込まれる中でも、業務改革やデジタル化による業務負担の軽減を着実に進めながら、必要な業務に、限られた人員を効果的に配置することにより、労働時間の適正化の観点を含め、適切な職員配置に努めてまいりたいと考えております。

問 超過勤務720時間超え198人、1600時間を超えている職員も2名いる。超過勤務手当も市民の税金であり時間もコストという視点できちんと管理すべき。改めて労働時間もコストという意識を醸成すべきであると考えられるがいかか。

答 超過勤務は、臨時・緊急の必要がある場合に命ずるものでございます。各所属において適切に業務の進捗管理を行いつつ、真に必要な範囲での超過勤務となるよう、事前の命令と事後の確認を通じて適切に管理することを引き続き周知徹底してまいります。また、人件費、超過勤務時間の縮減のためには、業務の効率化という視点も欠くことができないものと認識してございます。適正な業務執行を前提としたうえで、業務フローの見直しやデジタル技術の活用など、各般の取り組みを推進しつつ、様々な機会をとらえ、行政コストに係る職員意識の醸成を図ってまいります。

○相談ごと・ご意見などお寄せ願います。

お名前

ご住所

電話番号

議会での提案が反映されました ⇒ 伊達政宗公(胸像)を青葉山公園へ移設



仙台市博物館の中庭にひっそり佇んでいた伊達政宗公「胸像」。この胸像は昭和10年仙台城跡に設置されましたが昭和19年第二次世界大戦の金属回収策により撤去され、その後塩釜で胸像が発見されたのち青葉神社に奉納され仙台市博物館の中庭に設置されておりました。参考として現在青葉城跡の騎馬像は昭和39年に石膏原型により騎馬像を制作し設置された2代目の騎馬像です。騎馬像製作者は彫刻家「小室達(とおる)」さん、白石高校(旧制白石中学)卒業生であることから伊達政宗公と白石と言えば重臣「片倉景綱(かげつな)」通称;片倉小十郎であります。青葉山公園センター仙臺緑彩館は旧片倉家屋敷跡に建設されることから胸像の移設を求めた結果、整備が進められている青葉山公園整備に合わせて賑わいが期待される公園センターへの移設が実現されました。

基本政策を取りまとめ市長に提出しました

令和6年度の予算に反映すべく会派「市民フォーラム仙台」の基本政策を市長に提出しました。7月の市議選後に新たに結成した会派として6つの視点103項目について取り纏めたのです。①【子ども】子どもの命を守る教育と次世代支援②【経済】地域経済の活性化と雇用の確保③【福祉】市民福祉の充実④【安心】安全・安心なまちづくりと都市インフラの最適化⑤【環境】防災・減災および環境に配慮したまちづくり⑥【市民】行財政改革と持続可能なまちづくり。仙台市基本計画の推進にあたって基本政策を踏まえ対応してまいりたいと思います。



仙台市議会議員 加藤けんいち

生年月日 昭和43年12月24日

住 所 仙台市青葉区木町通2-6-48-503

“カトケン”は

安心・安全・安定 な社会をつくれます。

『安心』して暮らせる都市づくり

『安全』でやすらぎある住みよい都市づくり

『安定』した市民生活を支える都市づくり

